

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.3

令和4年5月27日

『生き生き学校2』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



どんな力をつけていくか

5月17日～18日の2日間、日光修学旅行が3年ぶりに実現しました。日光に行くことができなかった2年間の先輩たちの思いも、十分に感じながら、出発しました。

1日めは日光の山コースを巡る行程であったため、半日以上バスに乗車することになりました。少々不安もありましたが、バスガイドさんの話術や運転手さんの運転技術がすばらしく、往復のいろは坂でも体調不良者がでることはありませんでした。旅館では皆さんにお出迎えをしていただき、おいしい食事に舌鼓をうち、温泉と買い物を楽しみました。2日めは、晴天の中、多くの世界遺産を間近に見て、感動を得ることができました。

子どもたちにとっての修学旅行は、小学校6年間の中でのビックイベントであり、リアルな学びの場でもあります。当日を迎えるまで、6年生の担任が子どもたちに投げかけていた言葉がありました。

「あなたたちは、修学旅行を通して、
どんな力をつけていく？」

私は、日光修学旅行を通して、クラスみんなが「何をしたいのか、何をしなくてはいけないのか」を考えて行動する力がついたのではないかと思います。



自分は、意見をはっきりと言えるようになりました。迷っていたら「こっちだよ」と説明し、しおりを届けてくれたら「ありがとう」と言えるようになりました。

修学旅行では、他の人の気持ちを考えて行動できたと思います。僕は、制限のある自由の中でも、よく楽しめたと思います。

僕は、クラスが、男女関係なく話したり、活動できたりするようになったと思いました。日光では、活動グループの班でみんな仲良くやっているのを見たからです。

6年生の子どもたちは、日光の自然の雄大さや素晴らしい世界遺産にどっぷりと浸り、日光修学旅行の醍醐味を改めて感じました。また、互いを思いやる言動や迅速な集団行動が数多く見られたことも、「楽しさ」が倍増した大きな要因でした。

修学旅行で学んだことや楽しかったことは、今後の学校生活の大きなエネルギーとなることでしょう。今後の6年生の活躍に期待をしています。

★クラブ活動が始まりました★

5月23日(月)からクラブ活動が始まりました。今年度、開設するクラブは、イラスト・マンガ、卓球、ボール運動、バドミントン、コンピュータ、アウトドア、ボードゲームの7種類です。

第1回めのクラブ活動の組織づくりにおいても、学級会の「出し合う・比べる・まとめる」の授業の流れを応用し、部長や副部長らが進行役を務めました。

「比べる時には、理由を伝えることが大切です」
「これらの意見の中で、どの意見を最も大切にしたいかをまず考えましょう」

最終的に子どもたちが決めることができるように、教師がファシリテーター役となり、話し合いが進められていきました。

「努力して技術を磨くというよりは、クラブ活動だから楽しく取り組んだり、協力したりすることが大切だと思います」

あるクラブで、こんな発言をしている子どもがいました。自分の意見をきちんと言える力を育てています。



第1回学校運営協議会

5月24日(火)に、第1回学校運営協議会が開催されました。昨年度までは「学校運営連携協議会」という名称で運営していましたが、平成29年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、「学校運営協議会」が南足柄市でも導入されたための組織改編です。基本的な考え方に変更はありませんが、昨今、学校だけではなかなか解決できない課題を抱える中で、学校と地域との連携をより強めることで、地域の皆様のご理解ご支援をいただきながら、子どもの健全な育成を図ることが主なねらいです。

1年生の授業を参観後、委員の皆様から以下のようなご意見ご感想をいただきました。

○入学後まだ間もない1年生が、授業にしっかりと集中している。

○教員が自校の課題を共有し、コミュニケーションを生み出す授業形態を工夫している。

○席を立つときに、どの子もきちんと自分の椅子を仕舞うことができていた。こうした小さな取り組み(しつけ)を今後も大切にしていきたい。

○行動の背景に耳を傾け、思いを受け止められる人間関係づくりをめざしたい。

「くすのきプラン 2022」についても承認をいただき、今後も地域との関係を密にしながら学校教育目標の実現に向けて尽力して参ります。

★令和4年度学校運営協議会委員紹介★

伊藤 義孝 様 (委員長)
椎野 昌子 様 (副委員長)
中村 茂 様
上澤 幸子 様
渡邊 厚子 様
山本 賢一 様
渡邊 英子 様
石川奈緒美 様

1年間、よろしく願いたします。

教科書展示会ご案内

神奈川県教育委員会では、次のとおり小・中学校の教科書を展示し公開します。

期間 令和4年6月10日(金)～6月29日(水) ※土日除く

時間 午前9時～午後5時

場所 足柄上合同庁舎本館5階 東側大会議室

展示物 小学校用・中学校用教科書

特別支援学校用及び小・中学校特別支援学級用教科書

詳細は、県のHPをご参照ください。

わたしのひとりごと…

「短所」と言えば、その字のごとく「ダメなこと」「嫌なもの」と否定的に捉えられるのが常であります。しかし、最近「短所を愛する(めぐる)」という言葉に出会いました。しかも、「短所を愛する(めぐる)」ことは、自己肯定感を育むことにもつながるということです。自分にとって「短所」は恥ずべきものと思っているのに、「愛する」とは、とても難しいことだと思いました。

先日、こんな場面に出会いました。

校外学習の際、みんなが列になって歩いていました。列の前後の2人の子どもたちが、こんな会話を交わしました。

Aさん 「Bさん、ちゃんと並んで。いつも話に夢中になっちゃうんだから。」(Bさんは別の友達との会話に夢中)

Bさん 「ごめん、ごめん。ぼくには、お母さんが2人いるんだよ。学校とうちと…。」

その後、AさんとBさんは何事もなかったように、楽しそうに会話を始めました。

Aさんの言葉は、それだけ見ると明らかにBさんに対する注意です。しかし、Bさんはそれを明るくすんなりと受け止め、しかもダジャレで返しました。受け止め上手なBさんの言動もさることながら、Aさんの伝え方、関わり方が素敵でした。Bさんの良さでもある「話に夢中になる」ことは、時には「短所」にもなるのでしよう。でも、Aさんは、Bさんのこの「短所」を「嫌なもの」「ダメなもの」とは、思っていない。「仕方ないな。Bさんらしいな」「おしゃべりに夢中になるBさんも憎めないな」と肯定的に受け止めています。日常的なかかわりの中で、そのことが十分にBさんにも伝わっているのでしょうか。

「ぼくには、学校にも家にもお母さんがいる」という言葉が、それを物語っています。

「短所を愛する」とは、短所も含めて、自分を、そして仲間を丸ごと受け入れることだと思えます。これこそ、自己肯定感を高める秘訣であり、よりよい人間関係づくりの基本であると気づかされました。子どもたちに学ばせてもらった出来事でした。